

平成26年度 県立岩井高等学校自己評価表

目指す学校像		(1)変化の激しい社会をたくましく生きていくための「生きる力」を育み、心身共に健康な地域や社会に貢献できる人間を育成できる学校 (2)キャリア教育の充実を図り、生徒ひとりひとりの興味・関心や適性に応じた進路実現ができる学校 (3)地域の教育的ニーズに応え、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
教	国語	朝のSHRを活用し、朝学習を実施するなど1日のリズム作りを行った。学習に取り組む意識付けには多少の成果が見られた。また、大学教授を招いての授業検討会も実施し、授業改善に向けた取り組みもスタートできた。 進路指導面では、進路別見学会や参加型の進路ガイダンスによる体験的キャリア教育の充実を図り、キャリアカウンセリング等の個に応じた進路指導の実践をさらに進めた。100名を超える就職希望者に対し、98.1%の内定率であった。進学希望者も例年通りの結果であったが、平常課外や土曜課外、そして夏季・冬季休業中の課外を充実させ、センター試験等に対応できる学力を養成することが課題である。	ア 学力を向上させる諸指導の実践	① 主体的学習態度を養い、思考力、判断力、表現力を高める授業の改善を図る。 ② 小テスト等の導入により学習体制の確保と学習意欲の喚起を図る。 ③ グループ学習の活用などにより中学校からの継続性を図る。 ④ 各種検定試験の合格者やセンター試験利用による合格者を増加させる。 ⑤ 学習課題を工夫することによって、自宅学習時間を確保・増加させる。	B
		特別活動では、生徒たちの積極的参加によって、特に文化祭において自主性が発揮され、達成感や学校への帰属意識が育まれた。また、部活動においては、関東大会への出場や全国大会での入選等の成果が見られたが、加入率の増加には課題が残った。 地域との連携においては、相互の授業参観等で地域の中学校との連携を図り、文化部を中心とした地域行事への参加によって地域社会との交流を進め、一定の成果があったが、本校の良さを理解していただく情報の発信を工夫し、志願者の増加に繋げることが課題である。	イ 個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実	⑥ 職業観・勤労観を形成し、自己目標を明確化をさせるため個別面談の充実を図る。 ⑦ インターンシップやキャリアカウンセリング等の体験活動により生徒の進路意識を高める。 ⑧ 基礎力の定着や学習能力の向上を進める課外体制の充実を図る。 ⑨ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。 ⑩ 保護者への情報提供だけでなく、参加型の行事の充実を図り、進路意識を高める。	B
		朝のSHRを活用し、朝学習を実施するなど1日のリズム作りを行った。学習に取り組む意識付けには多少の成果が見られた。また、大学教授を招いての授業検討会も実施し、授業改善に向けた取り組みもスタートできた。 進路指導面では、進路別見学会や参加型の進路ガイダンスによる体験的キャリア教育の充実を図り、キャリアカウンセリング等の個に応じた進路指導の実践をさらに進めた。100名を超える就職希望者に対し、98.1%の内定率であった。進学希望者も例年通りの結果であったが、平常課外や土曜課外、そして夏季・冬季休業中の課外を充実させ、センター試験等に対応できる学力を養成することが課題である。	ウ 人間性・社会性を養う教育活動の展開	⑪ 学校生活を通し自らを律するとともに、他者との協調性を培う。 ⑫ 組織に所属する自己肯定感を高め、校歌を歌うなどにより母校愛を育成する。 ⑬ 各種講演会や面談を通し生徒の事故等の未然防止に努め、問題行動や転退学者数を減少させる。 ⑭ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する意識を育てる。	A
		朝のSHRを活用し、朝学習を実施するなど1日のリズム作りを行った。学習に取り組む意識付けには多少の成果が見られた。また、大学教授を招いての授業検討会も実施し、授業改善に向けた取り組みもスタートできた。 進路指導面では、進路別見学会や参加型の進路ガイダンスによる体験的キャリア教育の充実を図り、キャリアカウンセリング等の個に応じた進路指導の実践をさらに進めた。100名を超える就職希望者に対し、98.1%の内定率であった。進学希望者も例年通りの結果であったが、平常課外や土曜課外、そして夏季・冬季休業中の課外を充実させ、センター試験等に対応できる学力を養成することが課題である。	エ 学校組織の活性化	⑮ 生徒が積極的に参加できる学校行事を企画・実践する。 ⑯ 各部活動の加入率を高める。 ⑰ P D C A サイクルを活かし生徒・教師の実践力を高める。 ⑱ 情報管理部を中核とし本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。 ⑲ 地域の小・中学校と連携協力した取組を通して信頼関係を再構築し、志願者増につなげる。 ⑳ 学校・教員の自己評価活動を促進する。	B
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教	国語	基礎学力の確実な定着および向上を図る	「分かる授業」を展開するため、系統的な指導内容になるよう工夫する。ア①	B	・教材の選択や指導目標・方法を生徒の実態に応じたものとし、まずもって基礎力の確実な定着を図る。その上で、興味・関心を引き出すための工夫を考案していく。
		生徒の実態に即した授業展開を行う	小テスト等を有効に活用し、定着度を把握しきめ細かな指導の推進を図る。ア②	A	
		生徒の進路希望に応じた国語力の定着を図る	内容を精選した題材を用い、生徒に興味関心を持たせる。ア①	B	
		生徒の実態に即した授業展開を行う	基礎力の定着を図るとともに、学力に応じた目標を設定する。ア①	B	
通常課外・土曜課外を定期的実施し、上級学校への進学に対応できる学力の定着を図る。イ⑧	A	・生徒が、授業に積極的に参加し、時事問題等に関心を持てるよう			
単元毎に目標を明確に提示する。ア①	A				
生徒の実態に即し、教科内容を精選した資料や例を提示する。ア①	A				

地歴・公民		新聞・雑誌・インターネット・DVDなどの教材を活用する。ア①	A	A	に、グループ学習やレポートの発表などの授業方法・展開をさらに工夫していく。
	生徒が意欲的に参加できる授業を行う	グループ学習やレポートの発表など生徒参加型の授業形態を取り入れる。ア①③ 状況に応じた発問を行う。ア①	A B		
	基礎力の向上を図る	ノート・問題集など整然とまとめさせる。ア① フィードバックしながら関連事項についての理解を深める。ア①	A A		
	基礎学力の向上を図る	「わかる授業」を展開するため、板書、発問の仕方、課題プリントなどを工夫する。ア①③ 放課後や長期休暇中の補習を活用し、理解度の低い生徒に対応する。ア⑤	B A		
数	問題を解く力を養う	生徒の学力に応じた適切な問題を選択し、課外なども利用し演習させる。ア①④ 問題演習時間を十分に確保し、やる気を喚起する指導を行う。ア①⑤	A B	B	・生徒が、授業に積極的に参加しかつ関心を持てるように、授業方法、展開を工夫していく。 ・基礎、基本、反復学習を徹底する。また、進学や公務員希望者の実力の向上に努める。
	授業時の理解度を把握する	机間指導や問題集・ノートなどの点検により理解度の把握に努める。ア① 小テストや課題等を利用して生徒の学習状況を把握する。ア②	B B		
	基本的学習内容を定着させる	「わかる授業」を展開するために、板書、補助教材教具を工夫する。ア① 授業中に「小テスト」等を実施し、繰り返し学習することで知識の定着を図る。ア②	A B		
	理科への興味・関心の高揚を図る	ビデオやDVD、ITを活用して理科への興味・関心を高める。ア① 観察・実験を計画的に実施し、科学的な探究心を身につけさせる。ア①	A B		
理	観点別評価の推進	教科内の評価方法の共通理解を図り、生徒の実態に応じた適切な評価を行う。ア① 指導の改善を常に意識することで、生徒の学習意欲の高揚を図る。ア①	A B	B	・生徒が、授業に積極的に参加し、理科に関心が持て、さらに自ら学ぶ姿勢がみられるよう、授業方法や展開を工夫していく。
	保健体育	単元計画目標を明確に提示し、生徒の実態に応じた授業を展開する 視聴覚教材を有効活用する。ア① 運動能力の把握と個に応じた指導を充実させる。ア①	A B B		
芸	時間の確保と授業内容の充実を図る	授業開始時間を守らせる。ウ⑩ 挨拶の励行、運動に適した服装や態度を身につけさせる。ウ⑩ 種目ごとのルールを理解させる。ウ⑩	A A A	A	・各個人の体力や運動能力には違いはあるものの、集団の中で個人の責任を果たし、仲間と連携して運動の楽しさを味わう。 ・健康・安全に留意し、運動を継続できるようにする。 ・生涯を通じて自らの健康を管理する能力を育てる。
	運動を中心とした健康的な生活習慣を確率させる	授業後のうがい、手洗い等健康面や衛生面について指導する。ウ⑩ 運動と休養をうまく組合せ、健康を保持増進する能力を高めさせる。ウ⑩	A A		
	基本的な技能を習得させる	基本練習を充実させ、作品に取り入れられるようにする。ア① 机間巡視を行い、生徒の理解度を把握し、適切な助言指導を行う。ア①	B A		
	のびのびとした表現活動ができるようにする	生徒の実態に即した教材の精選と教材研究に努め、授業の展開方法を工夫する。ア① 実技研修に努め、生徒の実態に即した支援を行えるようにする。ア⑤	A A		
術	教室環境、用具の整備、管理を充実させる	教室環境を整え、活動意欲を喚起する。ア⑤ 用具の整備、管理を十分にし、わかりやすく、楽しい授業につなげる。ア①	B B	B	・基本的な表現技法を習得させることを課題とし、個々に応じた指導とレベルに添った指導を重点とする。表現する楽しさ、美意識の向上、創造性豊かな表現技法の育成に努める。
	基礎学力の向上を図る	コミュニケーション英語Ⅰにおいては習熟度別少人数制授業を行い、生徒一人一人の理解度に応じて細部まで指導が行き渡る授業を実践する。ア① パフォーマンステスト等の活用・課外の充実等により、英語の基礎力の定着を図る。ア②、イ⑧ 同じ科目や学年担当教員との連携が取れるように定期的に話し合いの場を設け、授業内容や進度について意見交換をする。ア①	A A B		
外	家庭学習の習慣を身につけさせる	定期的な宿題を出し、回収点検をする。また、生徒全員が期限を守って提出するように指導徹底する。ア⑤ 特進・進学クラスにおいては週末課題を課し、大学進学のための基礎作りを行う。ア⑤	A B	B	・英語への苦手意識の強い生徒に学習意欲を持たせることが課題である。その根本原因は英語が分からないことにある。なぜ分からないかということ、会話中心、文法軽視の英語教育を受けてきて、英文法をきちんと教えられていないことにあると考えられる。英語が分かるようになる指導方法の研究、工夫、改善が必要である。
	授業を通して英語や日本語でコミュニケーションをとる喜びを実感させ、コミュニケーションの素地を作る	ALTとのTT等を通して、生徒が英語圏の文化に興味関心を持つような授業を展開できるように工夫する。また、表現活動を充実させて、自分たちの英語が通じることを実感させる。ア①③ グループ学習やペア学習を導入することによって、「協同的な学び」の喜びを実感させる。ア①③ パワーポイントやDVDなど視聴覚教材を使い、生徒の興味関心を高める工夫をする。ア①	A B B		
	生活に必要な基礎的・基本的知識技術を習得させる	生活の基礎的・基本的知識や技術を習得させるため新聞記事などの新しいトピックを利用する。ア① 調理検定4級の内容を実技指導に盛り込むことで、検定の受験意欲を高める。イ⑧⑨ DVDや掲示資料を工夫し、興味関心を深めると共に理解しやすい指導に努める。ア①	A A A		
	実験実習を中心としたわかりやすい授業を展開する	実験実習の指導に実技テストを導入し、実技の習得向上を目指す。ア③④ グループ学習の指導を工夫し、調理実習などの実践的活動を意欲的に行えるようにする。ア③ 生徒が興味をもって取り組めるワークシートを検討し、工夫改善をする。ア①	B B A		

	家庭生活の充実向上を図るための指導を工夫する	ホームプロジェクトを夏休みの課題とし、家庭生活の充実向上に努める。ウ⑭ 研修会や講習会に参加し、学んだことを生徒への指導に生かす。ア①エ⑳	A A	を実施し、知識の定着を図ることが重要である。		
商業	簿記の基本的な知識と技術を習得させる	帳簿の記入の必要性を理解させ、帳票の記録・計算・集計を反復練習させる。ア①④イ⑨	B	・資格を取得することで、自信を持たせ、意欲的に授業に取り組めるようにする。 ・実技学習から基本的技能を習得させる。		
	電卓・パソコン技能を身につけさせる	電卓・パソコンの操作方法と基本技能を習得させる。ア②④イ⑨	A			
情報	ビジネス活動で必要とされる能力と態度を身につけさせる	ビジネスの諸活動に広く関心を持たせ、その意義や役割の理解を深め、主体的に学習に取り組めるよう、望ましい心構えや態度を身につけさせる。ア①②	B	・第2CAIが情報の授業専用として利用できるようになったが、PC機器の故障や生徒の扱い方に問題がある。 ・情報に関するモラルやマナーについて身近な事例をもとに理解させなければならない。		
	ソフトの基本操作を身につけさせる	代表的な文書作成ソフトの基本操作を一通りできるようにする。ア①⑤ 表計算ソフトを利用して、書類を作成できるようにする。ア①⑤ ソフトを用いて、タイピングの習得率80%を目指す。ア①⑤	A B B			
	情報を活用するための工夫をする	情報機器の種類と特徴を実習を通して指導する。ア①⑤ 生徒自身が方法を模索したり、グループ学習を通して協力し合う体制を作る。ア③	A C			
	情報の収集と共有を行う	インターネットの活用方法や情報を共有する決まりを指導する。ア①⑤ ネットワーク社会のルールとマナー、情報モラル等を具体例を用いて指導する。ア①⑤	B B			
教務	授業に取り組む態度を身につけさせ、基礎学力の向上を図る	授業形態や学習教材等の工夫を促し、80%の生徒がきちんと授業に取り組めるようにする。ア①③ 公開授業を企画し、教員の授業研究を推進することで、50%の生徒の学習意欲を向上させる。ア① 特に週末の課題等を工夫することで、週末の家庭学習に取り組みせ、学習習慣の定着を図る。ア⑤	A A B	・特色ある学校づくりのための事業を多く実施できた。 ・夏の学校説明会において方法を新たにし、魅力ある説明ができた。 ・授業研修の校内体制の基礎形式を作成できた。		
	観点別評価を推進し学習評価の改善を図る	新しい評価の観点を導入した適切な各教科のシラバス作成のとりまとめを行う。エ⑰ 生徒の実態に応じた学習評価の改善や指導の改善を全教科で取り組むことを支援する。エ⑳ 各教科との連絡を密にし、学期末や学年末の学習評価が適切に行われるようにする。エ⑰	A B A			
	教育課程の適切な実施と改善を図る	教育課程の適切な実施に向けて、年間行事、時間割、日課、単位時間等の弾力的な運用を図る。エ⑰ 学校の特徴づくりや志願者数増加のための「魅力ある教育課程」編成の研究を推進する。イ⑨	A A			
	基本的な生活習慣の確立	朝の立哨指導を含め、生徒に積極的に声をかけていく場面を増やす。ウ⑪ 校外での生徒の服装・態度について、社会通念上妥当なレベルを維持できるよう指導する。ウ⑪⑫	A A			
生徒指導	場面に応じた対応が出来る生徒の育成	チャイム着席の徹底。ウ⑪ ていねいな言葉遣いが出来るよう指導する。ウ⑪ 集会等の全体行動を通して自主性を育てる。ウ⑪	B B A	・校外での生徒の服装・態度について、社会通念上妥当なレベルを維持できるよう指導する。 ・バイク通学者に実技指導することができた。 ・薬物乱用防止講話や性教育の講話などを実施することができ、問題予防に努めることができた。		
	交通安全指導の充実	自転車通学者の安全意識を高める。ウ⑬ バイク通学者に対して実技指導を実施する。ウ⑬	B A			
	問題行動の予防	各種巡回指導を実施する。ウ⑬ 各種講話を実施する。ウ⑬	B A			
	いじめの未然防止、早期発見に努める。	自主的行動を意識させ、生徒自身が律する能力を高める。ウ⑪ 「いじめはすべての学校に起こりうる」という認識で、日々の教育活動の中で注視していく。エ⑰	B B			
	いじめ発生時に早期解消に努める。	当事者及びその保護者に適切に対応し、断固としていじめをやめさせる。ウ⑬	B			
	いじめの件で関係機関との連携を密にする。	保護者との連絡を密にするとともに、必要に応じて警察等にも相談する。ウ⑬	A			
	いじめに関する教員研修を行う。	研修を実施し、対応方法の共通理解を図る。エ⑳	B			
	進	進路意識及び学力の向上	進路希望調査、進路適性検査を実施し、自己理解と進路意識の向上を図る。イ⑥ 模擬試験の効果的な実施・課外指導の充実により、学力の向上に努めるように動機付けをする。イ⑧ 進学希望者はセンター試験を目標とし、受験勉強に取り組ませる。ア④		B B B	・生徒の学習意欲を喚起し、家庭学習時間の確保や授業・課外指導の充実を図る。 ・模試の結果を教科の学習や進路指導の改善に活かしていく。
		個々の進路希望に応じた指導の充実	生徒の適性や進路希望に基づいた計画的、組織的な進路ガイダンスを実施する。イ⑥ キャリアガイダンスを実施することにより、主体的な職業選択ができるよう支援する。イ⑥⑦		A A	

路 指 導		入社試験・入学試験の際に求められる、コミュニケーション能力や人間性・社会性を養うため、模擬面接や個別指導を行う。イ⑥ ウ⑩	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間の情報共有を促進し、効果的なキャリア教育体制の確立を目指す。 ・学習指導や諸活動のあらゆる場面でコミュニケーション能力を高める工夫に努める。
	より良い進路選択のための、教職員・生徒及び保護者との連携の強化	P T A総会、面談や進路説明会等の機会を通して進路情報を発信し保護者への啓発を図り、進路実現に向けての理解と協力が得られる態勢を整える。イ⑦ エ⑬	B		
		教員対象の説明会や研修会への参加を促し、進路情報を共有すると共に教員のモチベーションを高めて生徒に還元する。エ⑰	B		
		就職内定率100%及び志望校への進学を達成させ、外部へ情報を発信する。エ⑱⑲	B		
保 健 厚 生	健康に関する自己管理意識の向上	各種検診等を通して、自らの健康の維持増進に関する自己管理意識を高める。ウ⑪	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年によりクリーン作戦を行い、環境美化および教職員・生徒間のコミュニケーションの場となった。 ・防災教育については、先生方の役割分担の見直し、またHR中の災害ということにとらわれない形も考慮したい。
	校内の環境整備と清掃活動の充実	定期的に修繕箇所の点検を実施する。ウ⑫	B		
		清掃用具の在庫等の確認と各清掃区域の用具を整備する。ウ⑫	A		
		大掃除やクリーンプロジェクトの機会を利用し、清掃活動の向上を図る。ウ⑫	A		
	防火・防災訓練	より具体的なマニュアルを作成し、非常時に役立つ訓練を行う。エ⑮	B		
保健・厚生委員会の活発化	学校行事での保健活動、各種統計処理、保健意識の啓発、各種健康学習の推進（保健）エ⑮	B			
	環境整備活動への協力、E C O活動推進等（厚生）。エ⑮	B			
特 別 活 動	生徒一人一人が生き生きとした学校となるための学校行事の創造	生徒が積極的に参加できる学校行事を企画、運営をする。エ⑭	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら考えて動くことのできる行事を企画し、生徒の能動的な活動を支援し、生徒のコミュニケーション能力を養う。 ・部活動の加入率を上げ、学校の活性化に貢献する。また部活動の円滑な運営に貢献していく。
	生徒会活動の活発化	本部役員に「生徒の自治」という事を意識させ、その頂点にいる自覚と責任を持たせることにより、主体的に活動できるようにする。エ⑮	B		
		「各クラスでの話し合い→評議委員会→生徒会行事」という形を確立する。エ⑮	A		
	部活動の活性化	生徒の自主性・自発的な活動を支援する。エ⑮	A		
		部員に対し、技術・生活・学習面での指導を徹底し、生徒との信頼関係を深める。エ⑯	A		
部活動紹介、体験入部の充実を図り、部活動の加入率を50%にする。エ⑯		C			
図 書	図書館利用の推進	生徒や職員から購入希望の本を調査し、良書を選定する。エ⑰	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンター当番などの地道な仕事を責任を持って行える図書委員の育成に努める。 ・図書館で行うミニ文化講演会を継続して実施する。
		図書委員会の活動と新着本の情報を月1回以上、ホームページで更新する。エ⑱	A		
		季節に合わせて館内を飾ったり特集を組むなどして、明るく居心地の良い図書館をめざす。ウ⑪	A		
	図書部主催の文化的行事の充実	生徒や職員が楽しめるように、芸術鑑賞会の演目や文学散歩の行き先などを吟味する。エ⑮	A		
		図書委員が広報紙『ポプラ』を行事毎に発行できるように、係職員が指導する。エ⑱	A		
	図書委員会の活動を活発化させ、責任感があり自主的に行動できる生徒を育てる。ウ⑪	B			
視聴覚機器・資料の充実と有効利用	HRや授業で使えるDVDを選定し、有効活用を進める。ア①	A			
	視聴覚機器の保守と整備を充実させる。ア①	B			
渉 外	P T Aの活性化を図る。	P T A総会およびP T A関係行事の出席率を8割以上にし、共通理解を深め、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したP T A活動の実施に努める。エ⑱	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A活動の活性化につながる役員組織の改革をする。（規約の一部改正、役割分担の明確化等）
	学校・家庭・地域との連携を深める。	県P、県西Pの情報を保護者に提供するように努める。エ⑱	B		
	広報活動の充実を図る。	P T A会報の発行により、学校の概況を発信し、保護者に興味、関心を持って読まれるような紙面作りをする。エ⑱	B		
情 報 管 理	学校内外への情報発信の推進	学校ホームページのスタイルの改訂と発信内容の更なる充実を図る。エ⑱	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを改善し、情報発信内容の充実を図る。 ・新しいシステムを導入した成績等の管理体制を構築する。 ・教職員の情報機器関連の知識や技術の向上を図る。
		学校新聞「双峰」の掲載内容を見直し、年間8回以上発行する。エ⑱	B		
		学校情報配信システムの導入を推進し、生徒や保護者への迅速な情報発信体制を作る。エ⑱	A		
	成績管理等システム化の推進	職員が円滑に成績処理等が行えるよう校内の情報機器を管理する。エ⑰	A		
		新しい成績管理システムの構築を推進する。エ⑰	B		
情報セキュリティ対策の推進	個人情報の保護を念頭に入れた情報機器の使用について、職員の危機管理意識の高揚を図る。エ⑳	C			
	情報管理部職員のセキュリティ対策について技術を高めるための研修を推進する。エ⑰	C			

第 1 学 年	誠実な学習態度の確立	チャイム着席と授業準備を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	B	B ・チャイム着席を徹底し、積極的に授業に参加させる。 ・各自の進路目標を明確に意識させ、実現に向けての効果的な指導が必要である。 ・学校生活が落ち着いてできるように、さらに生活指導を強化する必要がある。
		挨拶や言葉遣い、問いかけに対する誠実な返答等の礼儀指導に努める。ウ⑩	B	
		課題や提出物をきちんと提出させる。	A	
	明確な進路目標を設定し努力する姿勢を身につけさせる	生徒との面談を充実させ、適切な指導をする。イ⑥	B	
		進学希望者に対して適切な情報の提供に努め、進学者向け課外を実施する。イ⑧	B	
		就職希望者の個性と職業を結びつけさせ、社会の一員としての自覚と希望を育てる。イ⑦	B	
人間性、社会性を養う教育活動の実施	服装・頭髪に関する全体及び個別指導を徹底する。ウ⑪	B		
	基本的な生活習慣を確立し、遅刻・欠席の未然防止に努める。また、家庭との連携・協力体制を作る。ウ⑪	B		
	学校行事や部活動に積極的に参加し、自らを律し他者と協調して共に成長する連帯感を養う。ウ⑪	B		
第 2 学 年	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	服装・頭髪に関する全体及び個別指導を徹底する。ウ⑪	B	B ・進路意識をさらに向上させ、個々の進路実現に向けて、適切な情報と効果的な指導をする。基礎学力の定着に努め、また、進学に向けての学力をつける。 ・最高学年としての自覚を持たせ、規律ある行動、当たり前前かが当り前に行動できるようにする。
		欠席・遅刻指導を徹底し、時間の大切さを理解させる。また、家庭との連携・協力体制を作る。ウ⑪	B	
		挨拶や言葉遣い、問いかけに対する誠実な返答等礼儀指導に努める。ウ⑫	B	
	誠実な学習態度の確立を図る	チャイム着席・授業準備を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	B	
		基礎学力の定着のため、小テストや進学者向けの課外を定期的実施する。ア②	B	
		適切な課題を与えることにより、家庭学習の習慣を身につけさせる。ア⑤	C	
	学校組織の活性化を図る	中堅学年として部活動の継続参加を働きかける。エ⑬	B	
		修学旅行において沖縄の文化に触れ戦争の悲惨さを学ばせる。エ⑮	A	
		クラスマッチ・体育祭・野球応援を通じてクラスや学校に対する帰属意識を育てる。エ⑮ウ⑫	A	
		進路ガイダンスやHR指導により、効果的な情報提供と進路意識の高揚を図る。イ⑩	B	
個に応じた進路指導の充実を図る	社会の一員としての自覚と希望を育て、インターンシップを成功させる。イ⑦	A		
	進学希望者に対して適切な情報の提供に努め、よりよい学習法の確立を援助する。イ⑧	B		
	生徒自身の自覚を促しながら、服装・頭髪指導を行い進路実現の手だてとし、自律心を育てる。ウ⑪	B		
第 3 学 年	基本的な生活習慣の確立をはかる。	時間に対する意識を高め、欠席・遅刻を減らす。また、家庭との連携協力体制を作る。ウ⑫	B	B ・就職、進学に必要な基礎学力は第1学年からの授業への積極的参加と家庭学習習慣が必要と考える。 ・就職内定率100%を目指して指導しているが、生徒の進路に対する考えの甘さがある。諦めず努力することを身につけさせる必要がある。
		挨拶や言葉遣い等の礼儀指導に努める。ウ⑩	B	
		始業前の着席と授業準備を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	B	
	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	適切な課題を与えることにより、家庭学習の習慣を身につけさせる。ア⑤	B	
		学力定着のため、平常・土曜課外を定期的実施する。ア②⑤イ⑧	B	
		総合の時間を計画的に実施し効果的な情報提供と進路意識の高揚を図る。イ⑥ エ⑮	B	
	個に応じた進路希望の実現を図る	就職内定率100%を目指す。また、大学進学希望者についてはセンター試験を全員に受験させる。ア④	A	
		イ⑥	A	
		生徒との面談を充実させ、適切な指導をする。イ⑥⑦	A	
			A	

※評価基準

上記具体的方策についてA, B, C, Dの4段階評価を行う。

- A 達成されている
- B ほぼ達成されている
- C あまり達成されていない
- D 達成されていない